

鹿角ゼロカーボンラジオ Nice Action!

第 17 回（2 月 4 日（火）放送分）の概要

今回は、再生可能エネルギーにより作られた電気について話をします。

鹿角には再エネを作り出す環境がたくさんあることを、前原さんにここまで教えてきてもらいました。ここからはその電気を実際どう使うかという実践編ですね。

はい、第 2 回の放送で 2030 年ゼロカーボンを実現するための対策を 7 つ紹介しました。そのうちの 1 番目に挙げられていたのが、「普段購入している電気を、石炭など二酸化炭素を排出する原料から、太陽光・地熱・水力など、いわゆる再生可能エネルギーによる電気に切り替える」というものです。

鹿角市のゼロカーボン達成において、この対策による貢献が半分以上を占めることが想定されており、しっかりやらなければならない対策を考えて、取り組んでいるところです。

ゼロカーボンへの意識が、市民にもじわじわと浸透してきていると思います。

ただし、これも以前の放送でもふれているのですが、ただ再エネの電気に切り替えるだけでは、地域が元気になるという観点で面白みがありません。

例えば、鹿角市外、秋田県外、東北地域外で作られた再生可能エネルギーをわれわれが買って、その結果としてゼロカーボンが達成されたということでは、地域のお金が出て行ってしまうということや、鹿角地域に再生可能エネルギーがたくさんあるのにそれを活かしていないという観点などから、地域活性化の機会を損失しているという感じになりますね。

地元の可能性がたくさんあいながら気づきにくく、効果や流れが見えづらかったのなかなか切り替えられなかった原因かもしれません。

そうですね。ということで、地元の再生可能エネルギーにより作られた電気を地元で使ってもらえるように、鹿角市の関係者が中心となり、「かつのパワー」という小売電力会社が作られました。

かつのパワーは、現在大沼にある地熱発電所、八幡平の永田にある水力発電所、大湯にある水力発電所、十和田の田代平にある風力発電所などの鹿角市内の発電

所から電気を購入し、鹿角市内の公共施設、事業者、個人宅へ再生可能エネルギーを供給しています。

その結果、現在 1 年あたり約 5,000 トンの CO2 削減効果を生み出しています。

かなり大きな数字ですよ。

はい、家庭などの屋根上の太陽光発電設備による電気の余剰分を買い取るという事業や、市の遊休地を用いて作った太陽光発電設備による電気を買い取るという事業も行っています。こうした、鹿角市内で作られる様々な電気をなるべく無駄なく活用するという取り組みも重要と考えています。

せっかく作ったエネルギー源ですからね。

なお、かつのパワーは最近、仙北市の秋田県営の水力発電所の電気を調達し始めたり、かつの地域外の事業所さんへの販売を実現したいするなど、事業基盤を強化しています。

また、かつのパワーは、かつのの地元メンバー 3 人ががんばって運営しています。この点もいいなと思っています。

今後にも期待です。

各方面でのここまでの努力が、「電気を売る」というところまで到達していたんですね。